

き ら め き

平成 29 年度
No.2

(通算 55 号)



「レジリエンス」を育てる

校長 鈴木 裕子



↑

6 月上旬、ヒメシヤラの開花

学校周辺の田植えも終わり、ところどころにカモ（雑草対策?）もみられるのどかな景色のこの頃です。本校の AB 高等部においては、先週と今週の 2 週間は、校外実習および校内実習の現場実習期間となっています。

実習期間の前に、高等部全員が体育館に集合して行う「実習激励会」が恒例です。一人ひとりが、実習先や実習中の目標を発表して、励ましあう会で、私も都合のつく場合は、必ず出席して話をいたします。

昨年度から、この機会に必ず話しているのが、「レジリエンス」です。

今日は、「レ」から始まる 6 文字の言葉の話をします。何だったか、2・3 年生は覚えていますか？ レジリエンス！そうです。これは、折れない心・心の回復力、うまくいなくて落ち込んだ時、立ち直る力のことです。

来週からの実習は、いつもと違う場所でいつもと違う人たちといつもと違うことに取り組みます。うまくいかないこともあります。実習先の人に注意されることもあるかもしれません。明日休みたいと思う日もあるかもしれません。落ち込んだ時は、この言葉を思い出してください。そして、自分の「レジリエンス」と、周りの人の「サポート」を信じ、気持ちを立て直し、次の日またチャレンジしてください。

本校では、「それぞれにその人らしい『自立』と『社会参加』につながる『生きる力』の育成」が、学校目標の大きな柱の一つとなっています。「生きる力」の中でも、困難に出会いながらも前向きに生きていくために必要な力「レジリエンス」を日常の中でどうやって育てていくかということについては、小さな成功経験の積み重ねが大切だと言われています。何より、子どもたちの周りの組織・支援者・家族が、まず十分に「レジリエント（困難に出会ってもしなやかで回復力がある）」であることが重要だと思っています。これからも、支えあい励ましあい高めあう職員集団として、子どもたちと向き合って参ります。



木工班製作 樹木名の札 →



作品介绍

A 小1ねん 「はらぺこあおむしとキャベツ」

・絵本「はらぺこあおむし」のあおむしは、さなぎになる前、おなか
が痛くて泣いたり、さなぎになってからは、じっと動かず何日も眠つたり
します。そしてきれいな蝶になります。人の成長を振り返ると、ある時
点で順調と思えない状態であっても、「成長する時には、そういう時期も
あるのだなあ」と後から思うことがあります。

学校コンサルテーションによる研修支援事業について

学校運営方針の柱の一つ「支援教育の考え方をもとに、インクルーシブ教育を推進します」の実践として、「地域で学び暮らす支援の必要な方々を支えるセンター的機能」があります。

その中の、具体的な取り組みとの一つとして、茅ヶ崎市寒川町の特別支援学級、および地域の県立高等学校の教員を対象にした学校コンサルテーションによる研修支援事業について、今回概要をご紹介します。本校の全職員が、インクルーシブ教育の当事者として地域支援に取り組んでいます。

○目的

- ・(対象教員・対象校) 養護学校職員が参加する勤務校での研修(コンサルテーション)と、茅ヶ崎養護学校での体験を合わせることで、支援の必要な児童生徒の理解を深め、具体的な対応について知る。
- ・(本校) 合理的配慮としての環境設定、支援体制の構築等について、実践的な学びの場を設定し、地域のインクルーシブ教育の推進に寄与する。

○主な内容

- ・学校訪問(参観・協議・アフターフォロー)
- ・体験研修(研修ニーズに沿った本校の体験)

○対象者

H27年度実績 9校9人 H28年度実績 9校9人 H29年度予定 12校12人

○研修に参加された教員の感想等

- ・養護学校の授業や教材を見学し、それぞれのねらいを知り、自校でも取り入れてみたいと思った。
- ・小学部だけでなく、中学部・高等部も見学できたことで、自校の児童の進路で情報提供できる幅が広がった。
- ・専門職(OT/PT)に自校の児童生徒について、ふだん気になっていることを相談できた。
- ・養護学校と顔の見える関係ができ、相談しやすくなった。

支援スペース ご活用ください

A 部門・B 中昇降口前の支援スペースについて、授業等で利用がない場合は、保護者・来校者の方が自由に使用できます。地域の支援団体の紹介、イベントのチラシ、保護者会の情報など、閲覧や一部持ち帰りが可能です。

授業参観・面談・送迎など来校の際には、ぜひお立ち寄りください。

